

バイオグリッド研究会 2019

パネルディスカッション「ライフイノベーションとかがやくいのち」

日時：2019/5/11（土） 16:00-17:30

場所：グランフロント大阪 C-9F VislabOsaka

パネリスト：（以下、敬称略）

理事長 下條 真司（大阪大学 サイバーメディアセンター長）

NPO 法人 オール・アバウト・サイエンス・ジャパン 代表 西川 伸一

理化学研究所 医科学イノベーション推進プログラム 桜田 一洋

（株）竹中工務店 大阪駅北地区事業本部／部長 水方 秀也

塩野義製薬（株）プロジェクトマネジメント部 部門長 上原 健城（グローバルプロジェクトリーダー）

モデレーター 理事 坂田 恒昭（塩野義製薬 シニアフェロー）

下條：うめきた2期を実証フィールドとしたい。

西川：[GedMatch](#)というDNAをアップロードすると遠い親戚を調べてくれるサイトがある。今や個人が全ゲノムを読むことができる時代になった。ゲノムなどの情報は個人が持つべき。必要に応じて個人が提供すればいい。IT企業が持つべきでない。人が死ぬとなくなるが、今はゲノム情報が残る。21世紀は人間の科学の時代で、それを支えるのが階層性のないPtoPネットワークであることを理解しないと、世界に遅れることになります。



桜田：これまではニュートンらによる物質、科学技術の時代であったがこれからは心の時代である。[救急救命士による Tedtalk](#)に人が安心して死ぬためには、これまでの罪を許してくれる人がいる・自分の存在を亡くなった後も覚えてってくれる人がいると確信できる、生きていた証を確信できるの3点であるという。心の問題である。かつては偉くなる、出世するとは負ける人を支配することであった。今や資本主義における格差社会が問題になってきている。これからは人と人の関係が重要である。自分の他に人が幸せになるかという意識も大事である。

水方：まちづくりはバーチャルの技術が席卷すると思いきやリアルが大事となってきた。路面に店や抜け道を作ることで町が活性化されることが必要となってきた。うめきた1期の時はスマートフォンが普及しだした頃でスマホを意識したまちづくりができなかった。これからはバーチャ

ルがリアルをどう変えるかという発想が必要。

桜田：うめきた2期ではロボットが普通にいるイメージなどで街づくりを考えたらいい。ロボットのほかにアバターもいるかもしれない。感性と理性をつなぐアルゴリズムが必要であり、情報幾何学で解決できるはずである。

上原：アトピーの原因は免疫力の低下である、完全にきれいな環境がいいのかは疑問。衛生的に劣悪はどうかと思うが、免疫力をつけるため完全なクリーンな環境を提供するのは考えるべきだと思う。

下條：いろいろなセンサーがあるのはいいが行き過ぎると監視社会になる。アルゴリズムにガバナンス機能が必要と思う。

桜田：シャイな人をどうやって店に入ってもらえるかなどの仕掛けが必要で、IT技術が使える。病気のミュージアムというのがうめきたにあってもいいのではないかな。

坂田：今後は科学技術や物質でなく、心の時代ではないか。今後はこれがキーワードになる。

以上